

備前 岡山 牛窓神社だより

第25号

平成26年7月30日
発行

〒701-4302
岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓2147

牛窓神社社務所
TEL 0869 (34) 5197

祈りを込めて いざくぐりましょう!! 夏越しの大祓祭(毎年7月30日)



暑中御見舞い 申し上げます

宮司 岡崎 義弘

牛窓神社を大切に思われる地元氏子崇敬者を始め、切っても切れない奇しき御神縁に結ばれた全国各地のゆかりある全ての皆様方には、連日の厳しい暑さの中、日々お元氣にお過ごしのことと存じます。
常日頃は、牛窓神社以下、町内各神社の維持運営並びに祭典の厳修に付きましては、物心両面の温かい御理解、御協力と御励ましを賜わり、心から深く御礼申し上げます。

さて、牛窓神社御本殿再建二〇〇年の記念事業に付きましても、平成二十四年、二十五年、二十六年の三カ年に亘りまして、格別のお力添えをいただき深く感謝申し上げます。

おかげ様で募金も当初の目標額を超える結果となり、記念事業の当初の計画は、今年三月末口を以って全て完成致しました。これも偏に、御協力いただいた多くの皆様方のご芳情の賜物と深甚なる感謝の気持ちでいっぱいです。この上は、なお一層虚心坦懐に御神慮を畏れ懐しみて、神明奉仕に邁進して参ります。今後とも変わらない御温情の程、切にお願い申し上げます。

なお、今年の秋祭りまでに、芳名者の銅板を設置し(八月いっぱいまで再確認をお願いします)年内には報告書を完成させて、記念品等を添えて皆様のお手元へ届けさせていただきますので、今暫らくお待ちくださいますように、よろしくお願い申し上げます。

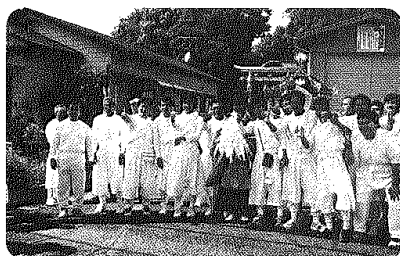
茅の輪くぐりの神事に 是非ご参加を!!

本日七月三十日に、牛窓神社の夏祭り「茅の輪くぐり」の神事が行われました。
拜殿前に設置された直径二メートルの大きな茅の輪を三度くぐって、半年間の罪、穢れ、災いを祓い清め、家内安全や無病息災を祈願し、そのあとカヤを一本持ち帰り、丸い輪にして自宅の玄関等にささげ厄除けにします。

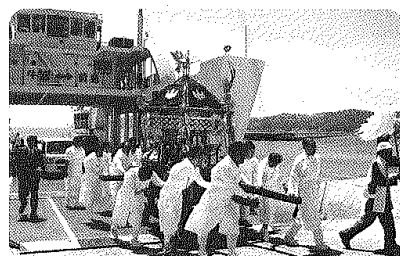
大きな茅の輪は、今年も氏子総代さん達が昨日二十九日、日の出前にカヤを刈り、心をこめて作って下さいました。八月三十一日まで置いてありますので、どうか皆様、御家族揃って、ひと夏を無事に過ごすことができるように、牛窓神社伝統の「茅の輪くぐり」の神事に御参拝され、古来より伝わる先祖先輩の知恵にあやかってみて下さい。
また、氏子の皆さまには、各戸にカヤ一本と祓い旗一枚を配布しますので、丸い輪にして旗をさし、玄関先にて向こう一年間大切にして下さい。なお、昨年の古い茅の輪はお宮にお返し下さい。



師楽に到着したよ



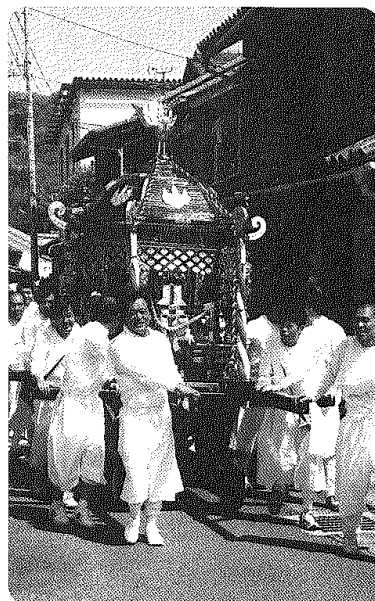
綾浦御霊神社の前でパチリ



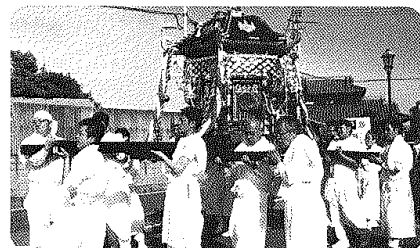
前島から帰って来ました

今年も伝統厳守

「おみこし巡行」春季大祭



張り切って頑張ろうぜ



大変に重たいけど担ぎます

お疲れさまでした お世話になりました

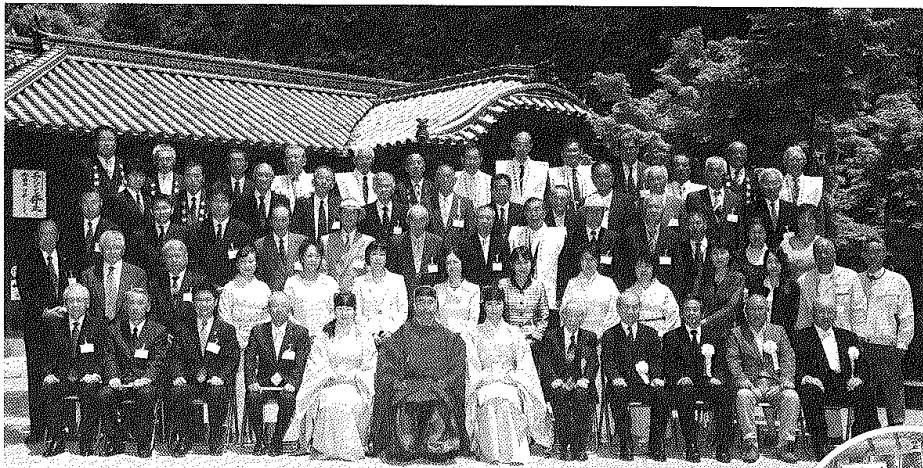
なお、来たる十月二十六日(日)の秋祭りのおみこし当番は、前島地区であります。
(写真 万城憲一郎氏 金谷芳寛氏)

追加訂正

牛窓神社だより第二十四号三頁にて報告した秋祭りおみこしかつぎ大浦地区の皆さんの名前に
森下 正実
石原 和久

両名の名前が心ならずも漏れていました。深くここに追記して、深くおわび申し上げます。

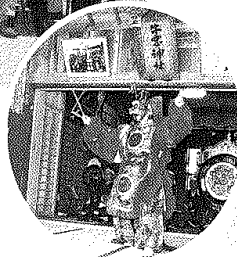
牛窓神社御本殿再建200年記念事業 竣工式催行



牛窓神社御本殿再建200年記念事業竣工式 平成26年5月17日

式次第

- 一、参進 参列者着席後、宮司・権禰宜が社務所から歩いて神前に向かう
 - 一、号鼓 始まりの太鼓
 - 一、修祓 神前、神饌、玉串、神職、参列者の順に破つ
 - 一、宮司一拜 宮司に合わせて神職も一拜
 - 一、献饌 お供え物を供える
 - 一、祝詞奏上
 - 一、人長舞
 - 一、玉串奉奠 宮司・総代長・区
-
- 一、撤饌 お供え物を下げる
 - 一、宮司一拜
 - 一、号鼓 終わりの太鼓
 - 一、宮司・総代長 御礼の言葉
 - 一、管弦 越天楽
 - 一、舞楽 蘭陵王
 - 一、写真撮影



舞楽蘭陵王

平成二十五年二月十七日に総合安月祈願の着工式を納めて以来、鋭意進めて参りました牛窓神社御本殿再建二〇〇年の各種記念事業が三月末日をもって滞り無く完成致しました。

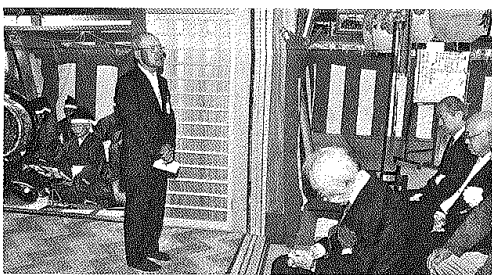
これを受けて五月十七日、内外の関係者の皆様と共に、ささやかな竣工報告祭を行いました。

は山本重信氏の司会の下、岡崎宮司の祝詞奏上の後、総代会長上野武志氏以下関係者が恭々しく玉串を奉りて、一連の記念事業の完成を心からお祝いしました。

なお、当日岡山楽所(代表 山田貫助氏)の面々により、生の雅楽の演奏と、人長舞と舞楽蘭陵王が奉納され、祭典に大きな華を添えていただきました。



岡山楽所の雅楽奉納です

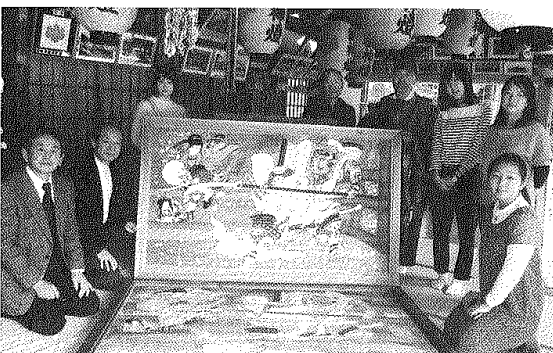


熱のこもった上野総代会長の挨拶



岡崎宮司正装にて参進

「牛若丸と弁慶の図」大絵馬 みごとに復元模写完成!!



大野、吉村両教授と愛弟子の皆さん



みごとに迫力が蘇った完成絵馬

牛窓神社の拝殿には幼なき頃の竹久夢二が愛した貴重な絵馬がたくさん残っていますが、滋賀県大津市の成安造形大学に復元模写を依頼した「牛若丸と弁慶の図」も大変優れた絵馬の一つです。

牛窓神社御本殿再建二〇〇年記念事業の一つの柱として復元模写を試みました。

依頼を受けた成安造形大学では、著名な日本画家・大野俊明教授、また絵馬研究の大家・吉村俊昭教授を中心にプロジェクトチームを立ち上げ、平成二十五年四月十四日以来、復元模写に取り組んでいた来て来ましたが、本年三月二十四日に無事完成して帰って来ました。当日は岡崎宮司が斎主となり、氏子総代会長上野武志氏、成安造形大学より大野・吉村両先生、学生代表今岡一穂さん、徳重瑞紀さん、辻井真耶さん、谷口昂さん(いずれも女子学生)と共に完成報告祭を実施して、牛窓神社の神々に感謝の誠を捧げ、成安造形大学を挙げての快挙に深甚なる敬意と感謝を表わし、御苦勞をねぎらいました。

牛窓絵馬選送

成安造形大学



教授
吉村 俊昭

牛窓神社本殿再建二百年記念事業竣工おめでとうございます。成安造形大学の学生たちとともに記念事業の一端を担わせていただいたこと有難く感じております。近年は生活様式の変化から、神社と氏子の方々が一体となってお祀りをするのが難しくなっています。そのようなかで、牛窓神社が恙なく記念事業を遂げられたことは「素晴らしい」の一言に尽きます。

牛窓神社、そして絵馬との出会いはまさに奇遇でした。3年近く前になるでしょうか、絵馬調査の旅の途中にかねてより気がかりであった牛窓神社に立ち寄り寄らせていただきました。山手の参道から神域に踏み入れたとき、岡崎宮司様の朗々とした祝詞が聞こえてまいりました。無住で杜にひっそり佇む社を想像していた私にとり、そこに居ますのは「人々とともに生きる神社」でした。絵馬を拝見し、奉りを終えられた宮司様と話をさせていただいたのが、今回の絵馬復元の始まりでした。絵馬を研究している私にとって多くの絵馬が痛むがまま朽

ちていく姿を見てきて、牛窓神社の拝殿に大切に懸けられている絵馬たちは一層輝いて見えたものです。年が明けて絵馬復元の話聞く中で、牛窓神社、岡崎宮司様、そして絵馬、この偶然ともいえる縁を反古にできないという思いと、氏子の皆様方の絵馬奉献の理解と熱意から引き受けさせていただいた次第です。

復元しました絵馬「牛若丸と弁慶の図」ですが、決して状態が良いものではありません。色あせと剥落が随所に見られ、特に牛若丸の顔が欠損しているのは大きな問題でした。さらに大学のある滋賀県への移送も不安材料でした。絵馬は保存処理が功を奏して幸い問題もなく大学に届き、赤外線写真を含めて詳細な調査を開始。大学のプロジェクトとして取り組むことも決まり、それぞれ得意分野を生かせる学生たち総勢16名と長年にわたり京都二条城の襖絵模写を指導されている本学大野教授も監修に加わって、平成25年5月に復元事業が開始しました。

絵は、江戸末期おおよそ天保(一八三〇年)から万延(一八六〇)あたりの本殿が再建されて間もないころに奉獻されたと推察、残念ながら絵師名や願主名は確認できませんでした。朱など比較的高価な絵の具が使用され、背景には金ではないが当時としては値の張る真鍮の金箔が散りばめられていることがわかり、それなりの財力で発願されたと思え、絵の技量も高く岡山とい

う京狩野の流れをくむ絵師集団と何らかのかかりのある絵師の筆によるものと思えます。画題で特徴的なのは、よくある牛若弁慶と比べ、量的に弁慶が多くを占め、弁慶の装束が牛若に勝るとも劣らない華やかな表現であること。背景も五条の橋の向こうに東山が描かれ、これが今見る風景とも非常によく合っている。しかし、この絵馬の一番の特徴は、他の五条大橋牛若と弁慶の構図には描かれることのない第三の人物の存在です。御慶喜三太定清、義経(牛若丸)の一番弟子が描かれている。確証を求めて様々な資料を探った中で、江戸末期の浮世絵師「国芳」の一枚の絵の中に五条大橋の場面で喜三太が登場していた。絵馬の作者がこの浮世絵を見ていたかどうかはわからないものの、何らかのヒントを得たとすれば一層興味深く、三者を描いた絵として貴重であるといえます。改めて名付けるなら「牛若丸、弁慶、喜三太五条大橋の図」とした

いものです。

絵馬の復元にはほぼ1年かかり、牛若丸の初々しくも力強い顔は、学生が何枚も下書きを描いて決定。衣装装束の研究から文様まで多岐にわたる調査と江戸時代の描画方法を学ぶことは、学生にとりまたとない学習の機会になりました。拙さが垣間見えますが、復元した絵馬がこれからまた数百年参詣の人々の目を楽しませることにできれば幸いと云えます。

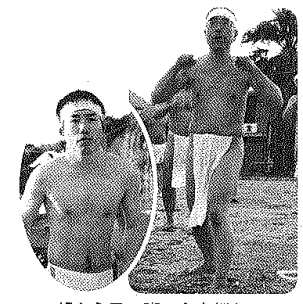
う京狩野の流れをくむ絵師集団と何らかのかかりのある絵師の筆によるものと思えます。画題で特徴的なのは、よくある牛若弁慶と比べ、量的に弁慶が多くを占め、弁慶の装束が牛若に勝るとも劣らない華やかな表現であること。背景も五条の橋の向こうに東山が描かれ、これが今見る風景とも非常によく合っている。しかし、この絵馬の一番の特徴は、他の五条大橋牛若と弁慶の構図には描かれることのない第三の人物の存在です。御慶喜三太定清、義経(牛若丸)の一番弟子が描かれている。確証を求めて様々な資料を探った中で、江戸末期の浮世絵師「国芳」の一枚の絵の中に五条大橋の場面で喜三太が登場していた。絵馬の作者がこの浮世絵を見ていたかどうかはわからないものの、何らかのヒントを得たとすれば一層興味深く、三者を描いた絵として貴重であるといえます。改めて名付けるなら「牛若丸、弁慶、喜三太五条大橋の図」とした

今年も寒中禊ぎに

宮司勇躍して参加

二月二十日、牛窓海水浴場において、今年も岡山県神道青年協議会(青江宏之会長)主催の寒中禊の研修会が行われました。女性三名を含む約二十名の参加者が、水温七度と身を切るような冷たい海水で身心を清めて、神職として、或いは社会人として向こう一年間、元気に生きる力を充電しました。

牛窓神社の岡崎宮司も元気に参加、さらに春休みで帰郷中の岡崎宮司の長男で皇學館大学神道学科三年生の岡崎寛英さんも二年連続で参加しました。



親から子へ禊の心を伝える

かわらぬふる里への憧憬

第六十七回京阪神牛窓会

牛窓町出身の方々に主に京阪神地域にて御活躍の人達の集い「第六十七回京阪神牛窓会」(会長見戸豊二氏)が、四月十三日大阪市内で開かれました。

牛窓からは岡崎義弘宮司以下、岡崎瑞枝、上野武志、高原能夫、岡 國太郎、成本崇の各氏が参加、殊に今年は武久頭也瀬戸内市長も参加して、ふる里の近況を報告させていただきました。

なお、今回の牛窓会の席上、次の方々が牛窓神社に向こう一年分の祭典協力金を奉納して下さいました。誌上をお借りして、報告感謝申し上げます。

山本安彦 河野修平 小松眞子 永井三郎
川野隆平 福江 彌 見戸豊二 佐々木正明
藤原 宏 三寿 稔 見戸正敏

(順不同敬称略)

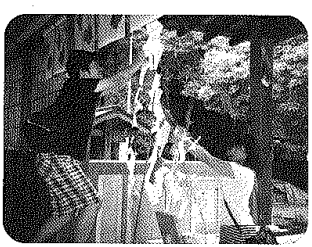


ふる里牛窓を愛する面々

第二回七夕祭り 星に願いを!!

七夕祭りが今年も行われ、御社頭に設けられた福笹には、多くの人達の素朴で真剣な願いが込められた色とりどりの短冊が奉納されて、御神前が華やいだ雰囲気になりました。

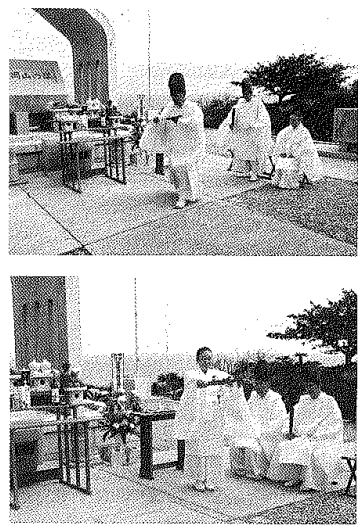
七月七日の夜十時から、岡崎宮司が斎主となって七夕祭りの神事が催行され、短冊に込められた善男善女の皆様の願いを銀河の星々に届けさせていただきました。



二人の願いよ星に届け

官司夫妻 沖縄の地にて 慰霊祭

官司 齋主 奉仕
夫人 舞姫



岡山県神道政治連盟（神政連）岡山県本部（三原千幸、安仁神社宮司本部長）は、二月二十五日から二十七日まで沖縄への視察旅行を実施し、神職ら十二人が参加しました。

この視察旅行は糸満市摩文仁の丘にある県戦没者慰霊塔「岡山の塔」で久し振りに慰霊祭を行うとともに、防人の島沖繩の国防を担う航空自衛隊、海上自衛隊那覇基地の表敬訪問を目的として行われました。

慰霊祭では、牛窓神社岡崎義弘宮司が齋主となって祝詞奏上、牛窓神社岡崎光子権禰宜が舞姫となって「みたまなごめ舞」を奉納しました。

自衛隊那覇基地の表敬訪問では、戦闘機の整備状況や対潜哨戒機の内部などを見学、また、最近はスクランブルの回数が増加しているなど現場の生の声を聞いて、「沖繩の置かれた厳しい現実を肌で感ずることができました」と官司夫妻は感想を述べられました。



TV番組 バイキング生放送

四月十四日、牛窓海水浴場にてテレビ「バイキング」の全国生中継放送があり、「日本全国各地曳き綱クッキング」のコーナーに、多くの地元の人達が協力、岡崎宮司、岡崎瑞枝権禰宜も大漁祈願で出演した。番組はおおむね好評でした。



誠にありがたき極み 手作りの神楽鈴を一對奉納

牛窓神社を常日頃厚く崇敬され、年間を通じて何かと物心両面の力を添えて下さる秦建設（株）代表取締役、秦啓一郎氏は先頃京都に旅行されました。その時奇しくも銚子金具の選定保存技術保持者（株）森本銚金具製作所代表取締役四代目、森本安之助氏と出合いの縁を結ばれ、その卓越した匠の業に魅せられて、同氏にその場で製作を依頼され、この程完成した神楽鈴を牛窓神社に二基奉納して下さいました。

伊勢神宮式年遷宮の種々の銚金具を製作された森本師が魂を込めて手作りされたこの神楽鈴は誠に繊細で妙な音色を発し、鈴音に浴する人々の魂を浄化する働きがあります。

末長く牛窓神社の社宝と致したく存じます。氏子総代会一同、秦啓一郎氏の御高志に深甚なる感謝の気持ちを表します。



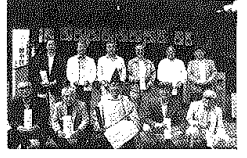
黒島武内神社 鳥居再建なる

黒島の氏神武内神社のシンボル朱の鳥居がこの度見事に再建され、五月二十日竣功式が行われました。黒島在住の中上祐陽氏、中上保雄氏、邑久町本庄の松井喜代香さんなど、多くの人々の誠心が結集されて、立派な鳥居が蘇りました。



三葉十八剣会 五十回記念参拝

五月二十四日の良き日、青春時代の一時期に同志社大学に入学し、四年間剣道部で活躍したOB達の同期の集い「三葉十八剣会」川野修平氏以下十名の人達が牛窓神社に祈願参拝をされました。卒業以来五十回目の同期会の記念参拝であり、また、数え七十歳古稀の祝いでの参拝でした。



清荒神俳句会一同参拝

三月二十四日の良き日に、兵庫県宝塚市より清荒神俳句会一同の皆さんが牛窓神社を正式参拝。主宰の北浦百葉氏、会長阿部賢治氏以下二十二名の人達は、岡崎宮司の祝詞に感動し、祭典後の講話に思わず笑を浮かべて充実のひとときを過ごされました。

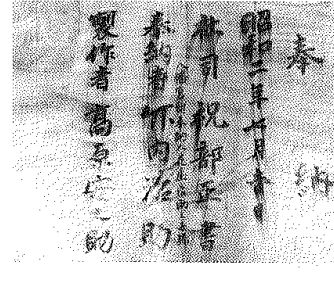


社号扁額に再び光を当てました

牛窓神社の倉庫に大切に保管されてきた昭和二年製作の社号扁額が、この程金色の塗装を再び美しく施されて随神門の正面に堂々と掲げられました。牛窓神社御本殿再建二〇〇年記念事業の附属工事の一貫です。

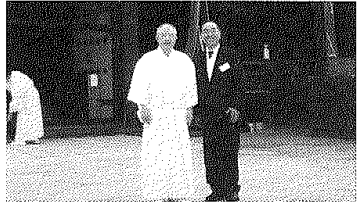
これに依り、随神門がより一層重厚味を帯びた感じがします。皆さん、次の御参拝の折には是非御覧下さい。

昭和二年七月の裏書きによれば書は祝部正 宮司さん（当時）奉納者は米穀商・酒販売・東町花屋の主人 竹内治助さん、製作者は高原安之助さんです。先人の方々の敬神の念の厚さに敬服するのみです。



八坂神社にて全国清々会

六月四日、五日の両日、素戔嗚男神をお祀りする全国の神社の総本社である京都の八坂神社にて、今年度の「全国清々会」が開かれ（同祭神社の神職の集い）岡崎宮司が参加しました。



石清水八幡宮にて全国八幡宮連合総会

六月十三日、十四日の両日、京都府八幡市の石清水八幡宮を会場に開催された全国八幡宮連合の第六十回記念総会に岡崎宮司が参加、「鎮護八幡神火祭」に今年も祭員として奉仕、翌日の研修旅行では念願の神功皇后の御陵に参拝することができました。



牛窓神社の「おもてなし」

牛窓神社、第二回献茶式並びに野点での会が二月十一日の建国記念奉祝祭に併せて行われ、今年も表千家の松本宗純宗匠が御点前を御神前に献じた後、和服姿のお弟子さんが参拝者たちに一服のお茶をたてて和やかに交流しました。



兵庫県神社庁 伊奈美支部 加古支部 神職会の参拝

快晴の天気恵まれた六月二十三日（月）、兵庫県神社庁加古支部・伊奈美支部神職会支部長中嶋邦弘氏以下十一名の神職の人達が正式参拝をされました。当日は宮司以下神職総出でお迎えし、「浦安の舞い」を含めての神事後、宮司の講話と境内の御案内をさせていただきました。



牛窓及び牛窓神社の謎を解く

21

中浦 金谷芳寛

瀬戸内海国立公園指定八十年こぼれ話

今年、昭和九（一九三四）年三月十六日に牛窓が瀬戸内海国立公園に指定されて八十周年を迎えます。今回は牛窓が国立公園に指定されるまでの道のりや秘話を、当時の「山陽新報」の記事から追っていききたいと思います。

昭和という時代の幕開けは、「昭和恐慌」からはじまる。昭和四（一九二九）年十月にアメリカのニューヨークで起こった株価の大暴落は、瞬く間に世界中に波及し、世界恐慌へと発展した。日本でも深刻な経済の打撃を受けたが、円安を利用した製品の輸出拡大で、都市圏では恐慌から早く脱出し、生活様式も大きく変化した。服装も洋服に代わり、それとともない女性の社会進出も進み、「バスガール」と呼ばれたバスの女性車掌などに象徴される「職業婦人」が現れた。最先端の洋装をまとった女性は「モダン・ガール」と呼ばれた。また、全国津々浦々まで鉄道網が張り巡らされ、乗合自動車やタクシーなどの自動車の運行も普及し、地域の交通体系は飛躍的な発展を遂げる。さらに、それにもない海水浴などの屋外レクリエーションや観光旅行が大衆化した。この大衆文化が花開いた時代を「昭和モダン」といいます。

一方、牛窓をはじめとする地方では、昭和恐慌が色濃く残り、町の基幹産業である木造船業が不振に喘いでいた。また、都市部に出ていた労働者が地方に戻るなどして、牛窓には失業者があふれていた社会状況でした（古老談）。牛窓町では、昭和七・九年に失業者雇用対策事業で、中浦大浦間の雁坂隧道（現在は切り通し）の道路整備や、中浦海岸の埋め立てを実施したり、財政難に陥った隣の鹿忍町との救済合併問題が取りざたされたりしたのもこの頃である。

そのような最中、昭和六（一九三二）年、政府が「国立公園法」を制定。町執行部と商工会は、国立公園を中心とした観光産業を模索することになる。瀬戸内海沿岸の各自治体では、町を挙げての誘致合戦が展開されたが、牛窓では漁業者・造船業者を中心に、国立公園に指定されると操業に支障が出るとの憶測も流れ、町を挙げての誘致運動にはならなかったといわれる（古老談）。

昭和七（一九三三）年四月の候補地視察委員会は牛窓を訪れることはなく、備前瀬戸地域の下津井・白石島・鞆の浦・屋島・小豆島寒霞漢が候補地となり、その地域が中核となることが確定した。牛窓の文字はどこにもなく、関係者には落胆衝撃が走った。以後、牛窓町の国立公園誘致運動は、「牛窓商工会」を中心に区域編入運動へと移行していくことになる（昭和六年八月九日記事ほか）。

牛窓町で国立公園誘致運動を展開していたのは、高祖鶴雄会長、万燈實太副会長（当時両人も町会議員、戦後牛窓町長）が率いる「牛窓商工会」でした。昭和八年三月、会長・副会長選挙が行われ、両人は責任を感じて辞意を表明していたが、総代役員はみな「一連托生」と国立公園編入運動継続を確認、両人も再任され、結束を深めた（昭和八年二月四日記事）。また、三月六日には町会議員選挙が実施され、商工会推薦者が多数当選した。もちろん選挙の争点の一つは、牛窓の国立公園編入であったという。こうして牛窓の国立公園編入運動は、選挙戦を通して町を挙げての運動へと拡大していった（古老談）。

そのような中、田村剛博士の公園区域決定のための追加調査が持ち上がった。所管の内務省の方針で、国立公園は地域の自然や景観などの保護を目的とするもの以外に、国民が気軽に利用できる宿泊施設や健康増進のための運動娯楽設備、あるいは鉄道・船舶など交通網の利便性も重要視された。この調査は、確定されている公園候補地に周辺部の小拠点地域を追加するための調査であった。その意味では、当時観光客の間で県下一評価が高かった牛窓海水浴場、

岡山・四国・阪神地方への航路の結節点であった牛窓港を擁する牛窓町は選ばれる可能性が高かったといえる。この調査では、岡山県下では牛窓・宇野が最有力視された（四月十一日記事）。

牛窓町と牛窓商工会は、田村視察団の詳細な日程情報を岡山県から事前に入手し、万全の体制を敷いた。田村博士好みの眺望点として、龜山公園・西寺・前島吉田山公園（吉田神社境内）を用意し、牛窓諸島の島巡りや唐琴の瀬戸などの名勝を中心に視察プランを組み、岡山県へ提出しました（四月十六日記事、現在オリブ園のある阿弥陀山は当時未開拓）。

五月二日、岡山駅に到着した田村博士を関係市町村長がホームで出迎えた。小橋廣衛牛窓町長も博士に名所案内・景勝写真等を手渡し、視察日程に繰り入れるよう申し入れを行ったといわれる（五月三日記事）。五月六日の視察当日は、牛窓町が視察団出迎

えの船を用意し、視察団を小豆島大部村まで出迎え、小橋町長や議員らが案内を行った。津島牛窓警察署長も新造されたばかりの警備艇「かもめ丸」を出し、小豆島・牛窓間を随伴させ、牛窓諸島視察の水先案内をつとめている。宿舎として、牛窓町は関町の旅館照月（現市山邸）を用意し、新聞記者を招いて公開座談会を開催、その後深夜まで歓迎のおもてなしを行った。近郷から田村博士のお話を伺おうと大勢の人々が押し寄せたとの言い伝えが残っている。翌日、田村博士は龜山公園や黒島などを視察後、午後より小串へと向かった（五月七、八日記事）。五月十日には商工会の総代役員選挙が行われ、国立公園編入運動継続のため人事を刷新し、運動担当専任役員を商工会内に置いて、巻き返しの体制づくりを進めている（五月十三日記事）。

視察日程終了後、岡山市の田村博士自宅で行われた新聞記者との公開座談会では、宇野・牛窓の風景についての質問がなされた。「牛窓の龜山八幡から指呼の間に、点綴する前島・青島・黄島・黒島などの美景や宇野の高辺山の眺望、絶佳（景）の一幅の絵模様は……」との記者の問いかけに田村博士は、

「却々捨て難いものがある……」とだけ感想をもらし、色よい返答ではなかった（五月十九日記事）。田村博士の考える瀬戸内海の風景は、鷺羽山に代表される眼下に広がる「多島美パノラマ」の眺望であり、その条件を牛窓が満たしていなかったからだと考えられる。その後、笠岡と牛窓が候補地から外れる見通しであるという衝撃的報道がなされ、再び関係者は落胆した（五月二十二日記事）。

新聞報道を受け、牛窓町と牛窓商工会は大逆転へのプラン見直しを迫られた。それは、区域が確定している屋島・小豆島寒霞漢に配慮し、本土側の眺望点を捨て、公園区域を牛窓諸島のみ限定するというものであった。そして、県と歩調を合わせ、県を通じて国へ働きかける方法に移行させた。六月十日、小橋町長は内務大臣山本達雄へ「国立公園区域認定請願書」を提出。その中で牛窓町は黒島を中心に島嶼部の私有地を買収して町有地とすること、将来島嶼部に建設された施設の経営は異議なきことなどの方針を国へ示しました。これを受けて十一月十日、内務省国立公園委員会が田村博士は、「牛窓附近アハ前島、黄島、黒島、青島ト言フヤウナ此辺一帯ノ島嶼部ハ、当初ノ区域ヲ拡張致シマシタ結果、当然新二区域ニ編入セラレマシタ」と報告、牛窓諸島が特別区域として、瀬戸内海国立公園に編入決定された瞬間であった（瀬戸内海国立公園の誕生）。

しかし、その後の日中戦争の泥沼・激化と、国際関係の緊張を受けて「国家総動員法」が成立。「昭和モダン」は終わりを告げたが、先人たちの多くの困難と苦勞をもった国立公園の誘致は、観光地牛窓の礎となったのです。

※参考文献
・小野芳朗「瀬戸内海国立公園・下津井と牛窓の風景」
・岡山県立記録資料館所蔵「山陽新報」複製本
・「牛窓町史」通史編
・牛窓商工会「備前牛窓」

皆さん、どうか お気軽に月初めには おついたち参りに 御参加下さいね。

氏子 崇敬者の皆さん、

一年の計は元旦にありとよくいわれますが、一カ月の計はおついたちとありと申します。

牛窓神社では、岡崎宮司が昭和五十四年四月一日宮司就任以来、欠かさことなく月次祭（月並祭）「おついたち参り」を主催しています。時間は、午前六時・七時・八時の三回で、参拝者の皆さまとわきあいあいの雰囲気の中、一カ月間の家内安全・身体健全を祈ります。どなた様でも（町内町外を問わず）気軽に参加できますので、どうか皆さん、御都合のよろしい月初めには、おついたち参りに御参加下さい。御神酒並びにお下りの御神東をお授け致します。



皆で仲良く大祓詞奏上

家内安全の願いを心にお祓いを受く

暑中お見舞い申し上げます

代表役員	宮司	岡崎 義弘
役員	(岡町)	上野 武志
	(本町)	上寺 祥一
顧問	(栗町)	万城憲一郎
相談役	(天浦)	服部 弘平
氏子総代	(輪)	炭田 幸郎
	(天浦)	中住 雅明
	(東町)	森藤 弘幸
	(前島)	竹内 雅彦
	(西町)	久保 清昭
	(中浦)	山田 利一
	(綾浦)	山田 正福
	(新浦)	竹村 康行
	(新浦)	炭田 弘之
	(新浦)	真田 益三
	(新浦)	山本 重信

初宮参りおめでとぅ!!

(平成二十五年十二月二十四日、平成二十六年七月二十日)

神谷 千乃ちゃん	守都 結菜ちゃん
かみや 瑠香ちゃん	長谷川 雄大くん
吉田 悠稀くん	内田 里央菜ちゃん
藤田 歩実ちゃん	川野 彩世ちゃん
谷口 佑亮くん	國米 曠太くん
木船 桃花ちゃん	小川 豪くん
武内 匠之助くん	山本 權生くん
岡本 莉帆ちゃん	榎木 美結ちゃん
為房 結喜ちゃん	藤原 康介くん
川崎 汐音ちゃん	岩本 尚之くん
朝倉 汐莉ちゃん	柴田 梨央ちゃん
戸井 汐莉ちゃん	



挙式日 平成26年4月5日

新郎 タイ国 チャヤブーン県
ムアン チャヤブーン市
チャイウイラット・
ウイタワット さん

新婦 愛知県日進市岩崎町
高 石 洋 子 さん

宮司さんのひとこと

お二人の人生が、日本とタイ両国の友好親善に大きく貢献されますように!!



御結婚おめでとぅ!! お幸せに!! (国際結婚第二組目となります)

もう一度氏名・金額を正しく 御確認下さい。

本号の神社だよりの中でも触れておりますが、牛窓神社の氏子崇敬者の皆さまには、御本殿再建二〇〇年の記念事業に心温まる大きなお力をお寄せ下さり誠にありがとうございます。

お正月に続いて再度のお願いですが、一口二万円以上の御寄附をして下さった全ての皆様様の御芳名の訂正版を境内に再掲・額しておりますので、是非とも、茅の輪くぐりに御参り下さった上で再確認に御協力下さい（八月末日まで）。

未歳の年男・年女の皆さんへ 来年の絵馬奉納に御協力を!!

平成十五年未歳を皮切りに、牛窓神社の境内に一年を通じて、その年の干支の大型絵馬が奉納されます。絵馬本体は西町の末長昭吾氏が、作画は岡山市東睦の中山弘子氏が、それぞれ情熱を込めて見事に作り、描いて下さいます。

さて、皆さん、来年平成二十七年は未の歳です。年男・年女に当たる方で、絵馬の奉納に御協力いただける方は、どうぞ早めに牛窓神社宛にお申し込み下さい。

協力金 一万円
募金人数 先着十二名(町内外・年齢は問いません)

牛窓神社
平成二十六年
御寄附金
御寄附先
御寄附額
御寄附日
御寄附者
御寄附先
御寄附額
御寄附日
御寄附者

編集子のつがやき

牛窓を愛する多くの善男・善女が毎年楽しみにしていた夏の風物誌、牛窓花火大会が、今年は諸事情ゆえに中止になりました。人材不足が最大の理由ということで残念でなりません。希望的観測ですが、さまざまな困難を克服して来年は是非、牛窓の夏の夜空に大輪の華が咲き、地域が元気づけられることを切に願うばかりです。

今回は、平成二十七年元旦の発行予定です。(編集子)